

令和5年度 三次市立三和小学校 学校評価自己評価表

◆ 経営理念 ◆

【教育目標】

【ミッション】

【ビジョン】

ともに学び合い 主体的に行動する児童の育成

○ お互いを尊重し合い（自他理解）、主体性を発揮し、夢と目標の実現に向け、ともに伸びていくことができる子供を育てることで、将来、たくましく生き抜く基礎を培う。

○ 学校と家庭や地域が連携・協働し、子供の学びを充実させ、地域の文化の継承やふるさと三和（三次）を愛し誇りに思う子供を育てる。

- (1) めざす学校像 子供（保護者）が「この学校で学んで（学ばせて）よかった」と思える学校  
 (2) めざす子ども像 やさしい子 よく考える子 やりとげる子  
 (3) 児童につけたい資質・能力 ①知識を生かし深める力 ②共に考え伝え合う力 ③自ら関わり学び続ける力

◆ 経営目標・評価項目・評価・達成状況 ◆

	中期 経営目標	短期 経営目標	目標達成のための方策	評価指標	目標 値	中間			最終			結果概要と分析(最終)	今後の改善方策（取組）最終	担当
						達成値	達成度	評価	達成値	達成度	評価			
確かな学力の育成	1 共に学び合いながら理解を深め、主体的に学ぶ子供	(1) 対話しながら学び、自ら基礎的・基本的な学力を身に付ける力の育成	① 学力調査（学習・意識・生活）を活用した実態把握、指導改善による学力の向上 ② 学習規律（「5つの約束」）や学習習慣の確立と、自らの学習を調整する力の育成 ③ タブレット端末の活用と情報モラル教育の充実	・単元末テスト 80%以上 7割 ・三次市学力到達度検査 全国平均以上 7割 ・児童アンケート 90%以上	70% 70% 90%	59.2% — 84.2%	84.5% — 93.6%	2 — 3	62.7% 81.3 86.5%	89.5% 116 96.1%	3 4 3	・国語科の単元末テスト80%以上達成は、1年10/12名、2年7/9名、3年5/10名、4年10/11名、5年11/14名、6年9/15名。算数科は、1年10/12名、2年4/9名、3年5/10名、4年5/11名、5年7/14名、6年7/15名であった。どちらも中間報告時よりも概ね達成者数が増えている。 ・国語科、算数科のいずれにおいても「思考・判断・表現力等」の問題では、どの学年も個人差が大きい。	・自分の考えを書いたり、説明したりする活動を積極的にどの学年も取り入れた。担任もアウトプットへの意識が高まっているため、今後も継続して行っていく。 ・「チャイムが鳴る前に次の授業準備を済ませる」、「正しい姿勢での学習」、「学習の自己調整」についての児童アンケートの質問には、肯定的回答が7割弱と低いため、朝会等で一斉指導するとともに、各学級実態に応じて、個別指導等を行い、児童が自主的に望ましい態度をとることができるようし、適宜肯定的な評価を行う。	教務部
		(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業研究の推進	① ペア・グループを活用した対話的な学習活動の充実 ② 「学びのプロセス」を位置付けた単元の計画と実践記録 ③ 「やってみタイム」の計画的実施	・「主体的・対話的で深い学び」に係る児童アンケート 80%以上 7割	70%	75%	107%	4	73%	104%	4	○15項目中10項目の数値が上昇【特に「学習方略」「情報収集」「相手意識」「知識活用」は10%以上上昇・「自己調整」「救援質問」は15%以上の上昇】 ○「対話的な学び」については5項目全てが上昇しており、指導者側の意識変革が顕著に表れている。 ●「主体的な学び」については5項目とも80%に達していない(76.8%)	☆児童の問いをもとに課題設定をするともに、調査結果や学習方略に見通しを持たせる手立てをしていく。 ☆学んだことを文や絵・図表などを使ってまとめたり、作品にしたりして伝え合う学習活動を意図的に計画的に設定していく。 ☆児童が、得られた知識や情報をつないで自分なりの考えを適切な言葉を使ってまとめたり、活用したりすることを大切にする。	
豊かな心の育成	2 規範意識や豊かな人間性・社会性を育み、将来の自分や地域について考える子供	(3) 自己決定の場や自己存在感を大切にしながら共感的な人間関係の育成	① 共感的な理解・できたことの強化・情報の共有 ・児童交流、保護者連携、児童面談、いじめアンケート ② 礼節や規範意識の醸成 ・「光が丘の約束」（挨拶、廊下歩行、集合、掃除、相互評価、ふわふわ言葉） ③ 違いや多様性を認め合い、合意形成しながらつながりを深める集団活動 ・小・中スマイル集会（年2回）、 ・「学校の森」集会（年4回）、 ・縦割り班掃除 ・集団生活の課題や将来の自分・地域について考え、行動する活動の充実	児童アンケート（肯定的評価 75%） ・「自分にはよいところがある」 ・「友達のよいところを見つけることができた」  ・「光が丘の約束」児童アンケート（肯定的回答 85%）	75%	自分 77% 友達 93%	自分 102% 友達 124%	4	自分 63% 友達 88%	自分 84% 友達 117%	3	・児童アンケートの結果によると「自分にはよいところがある」「友達のよいところを見つけることができた」の2項目とも減少している。学校行事や学級活動を通して、自己肯定感を高める場やお互いを認め合い達成感を味わう振り返りの場が十分ではなかったことが反映しているのではないかと考えられる。 ・「光が丘の約束」においては、挨拶41名、廊下23名、集合41名、掃除53名、相互評価28 +50名、ふわふわ言葉34名が肯定的評価であった。挨拶は、児童会の挨拶運動の継続により、執行部の姿を手本にはきはきとした声で挨拶する児童が増えたように見受けられる。	・各学年の特別活動を充実させることに重点を置いて取り組みを進める。学級の直面している課題について自発的、自治的に解決策を考えて取り組み、振り返りを行うという一連の活動において、自己有用感、達成感を味わうことが自尊感情を高めることにつながる。また、担任は実施状況を学年間で交流し情報の共有を行い、全児童に共通認識の下で指導にあたっていく。 ・学年担任は、児童面談を定期的に行い共感的な理解に努め、児童の小さなサインを見逃さないことを常に意識して、日々の充実した指導を行う。	生活部
逞しい気力と体力の育成	3 心身の成長・発達について理解し、自らの命を守り健康の保持増進に取り組む子供	(4) 基本的な生活習慣の確立と、健康や体力向上の実践力・判断力の育成	① 体力朝会の実施・改善（週1回以上） ② 生活習慣の確立とネット依存防止対策 ・メディアコントロールチャレンジ(年4回) ・外部講師による授業、保護者啓発（保健だより、講習会等） ③ 食育指導の実施 ・地域を活用した食に関する指導の推進	・新体力テスト 36/48 (4種目×6学年) ・アンケート（肯定的回答 85%） ・就寝時刻 1-4年 9:30 80% 5-6年 10:00 80% ・iPad使用1時間以内 1-4年 85% 5-6年 70% ・食育授業実施率90%以上	75% 85% 80% 80% 85% 70% 90%	69% 86% 55% 61% 51% 48% 71%	92% 101% 69% 76% 60% 69% 78%	3 4 2 2 2 2 2	・ ・ ・ 74% 48% 48% 42% 100%	87% 87% 75% 60% 56% 60% 111%	・ ・ ・ 3 2 2 1 2 4	①男子において「走る・跳ぶ・投げる」などの体全体を動かすような動作と瞬発力に課題がある。また同じく男子において肥満もしくは肥満傾向の児童、食生活に課題をもつがいる。 ②目標就寝時刻までに寝る児童の割合は、1-4年生は60%、5-6年生は48%と目標値を大きく下回っていた。 メディアに関するアンケートを全校児童を対象に夏休み明けに調査した。その結果をもとに、各クラスで保健指導をし、長時間のメディアの使用が身体に与える影響等、学級指導をした。保健指導直後は、メディアを長時間使用しないよう意識して過ごしている児童もみられたが、9月末に実施した生活づくり表の結果は、1学期とほとんど変わらなかった。 ③世界の味めぐり献立を給食で提供する際、給食時に各教室を周り、指導を行った。食事マナーについては課題がみられるため、指導が必要である。	①学級遊びの時間を設定するなどして外遊びを奨励する。体づくり朝会でも走る・跳ぶなどの基本的な動きに加え、リズムダンスや縄跳びなどの用具を用いた運動に取り組み柔軟性・持久力・調整力の向上を図る。養護教諭栄養教諭と連携し、バランスのよい食事をするのが大切であるといった食教育を進める。 ②早寝早起きの大切さや睡眠の大切さ等を引き続き児童や保護者に啓発していく。 メディアコントロールチャレンジの取組等を活用し、メディアを長時間使用しないよう意識して取り組ませたり、保護者啓発を今後も継続して行っていく。 ③食育指導実施について、指導回数が学年によって差があるため、学級担任と連携し、計画に基づいた充実した指導を行っていく。（学級担任とのITでの指導も同時に行っていく）	生活部
信頼される学校づくり	4 保護者や地域・関係機関と協働し、適正な運営ができる学校	(5) 計画的な情報発信と働き方改革の推進	① 計画的な連携推進 ・小中一貫教育（目標やビジョンの共有）、保小連携、コミュニティー・スクールの充実 ・「家での5つの約束」（PTA活動）の周知・啓発 ② 学校便り、学級便り、HP等での積極的な情報発信 ③ 働き方改革・業務改善の推進 ・学期を見通した計画的な学校運営 ・19時施錠、勤務時間外の行事や会議等の自粛の取組	・保護者アンケートの満足度・信頼度 肯定的回答 85%以上 ・教職員アンケート 肯定的回答 85%以上	85% 77%	92% 77%	108% 90%	4 3	97% 76%	114% 89%	4 3	小中連携について計画的に進めることができたが、より具体的な目的等を児童・生徒・教職員で共有することが必要である。情報発信は予定通り進めることができ、保護者アンケートの学校への候的評価は97%で一定の理解を得ることができた。 教職員の働き方改革においては教職員アンケートでは、仕事に対する充実度は、肯定的評価が100%ではあるが、時間内に仕事が処理できていると感じている職員が30%しかおらず、課題が解決できていない。	小中連携については、次年度に向けて小学生と中学生が、活動の意図や目標を共有しながら合同行事などを計画していく。今後、地域学校協働活動について今後保護者地域にどのように発信するか検討していく必要がある。 業務改善の推進は、一定の成果を出しているが、引き続き時間確保、優先順位、タイムマネジメントを意識しながら、見直しをもって計画的に業務を遂行する。	教頭

\*達成度＝達成率÷目標値×100

\*評価 4：目標を達成した（達成度100以上）

3：目標をおおむね達成した（達成度85以上～100未満）

2：目標をやや下回った（達成度85未満～60以上）

1：目標を大きく下回った（達成度60未満）